

必要なら、鳥まで使って（2026年9月2日）

逃亡中の預言者、給仕役としての鳥、そして頼れる神様。ヘルゲ・ムチュラー主使徒は、ケリトの溪谷で起きた出来事から五つの教訓を引き出しています。それらは組み合わせることで、何よりも重要なことを私たちに伝えています。

2026年6月29日（月）、ボエンデ*の教会で執り行われた礼拝には、1,000人余りの信徒たちが集まりました。ヘルゲ・ムチュラー主使徒は、コンゴ民主共和国*西教区のエリー＝タティ・ムキンダ教区使徒が管轄するツアパ州*にて礼拝を執り行いました。

主使徒は列王記上の一節を基調聖句として引用しました。「すると鳥^{からす}が、朝にパンと肉を、夕方にもパンと肉を彼のもとに運んで来た。水は溪谷で飲んだ」（王上 17:6）。礼拝の説教は祭壇で英語からフランス語とリンガラ語へ通訳されました。〔以下、主使徒による説教の要約〕

「恐れてはならない。ただ信じなさい。」日常生活では、不安を感じさせるきっかけがたくさんあります。毎日口にする食糧の確保、子供を信心深く育てること、病気とその経過に対する不安、私たちの国や世界の未来についてなどです。私たちには、この標語に従って生きるための規範が必要です。その規範の一例が、今回の聖句を含んだ箇所に書かれています。

アハブ、エリヤ、干ばつ

約2,800年前、国王アハブがイスラエルを治めていました。アハブは唯一真理である神様を信仰せず、異教の神バアルのために神殿を建て、干ばつの中で雨乞いを目的として偶像を拝んでいました。当時、その地域にはエリヤという預言者もいました。

「エリヤ」とは「神は我が主なり」という意味です。



エリヤはこの唯一の神様に徹底して忠実でした。エリヤは勇敢にも国王に対して干ばつに見舞われることを伝えました。その後、エリヤはどこへ行けばよいかも分からぬまま逃亡を余儀なくされました。神様はエリヤをケリトの溪谷へ行くよう指示し、そこで鳥に養ってもらうことを約束されました。ただ、鳥はけがれた動物とみなされていました。エリヤは最初「それはできない。鳥はけがれた動物だから」と思ったかもしれませんが。しかし、考え直して従うこととし、エリヤは旅立ちました。

エリヤが神について学んだこと

今回の聖句には、その後溪谷での出来事が書かれています。朝夕毎に、鳥がパンと肉を運んで来てくれて、エリヤは溪谷で水を飲むことができました。この出来事から、私たちは五つの教訓を得ることができます。

- 神様は唯一の存在である。この唯一の神様だけが、あらゆることを成し遂げられるのです。バアル神とそれを物質として象徴したものには何の力もありませんでした。私は文化や伝統を十分尊重しますが、お守り、先祖崇拜、呪術、祈

禱師、偽預言者がイエス・キリストよりも、一人ひとりにとって重要なのか、という疑問は残ります。新使徒教会の信徒である私たちには、祈禱師も呪術もお守りも不要なのです。

- **神様は誰も裏切らない。**エリヤは危険に晒され、身を隠さなければなりませんでしたが。神様は彼を裏切って追手に居場所を明かすようなことはなさいませんでした。私たちは、奥底で思っていることや個人の問題を、神様の前で打ち明けることができます。神様は、皆さんから託された秘密を守ってくださいます。
- **神様は約束を守られる。**神様がエリヤに約束されたことは、現実となりました。しかし、最大の約束は未来に関するものです。キリストは花嫁を天の故郷に迎えるために再びおいでになる、という約束です。神様は真理です。嘘をつきません。
- **神様は道をお示しになる。**私たちはほぼ毎日、判断を迫られます。皆さんの人生にとって本当に最良の道とは何か、神様にお尋ねになっていますか。
- **神様は養ってくださる。**イエス様は山上の説教

で、衣服や飲食についてどうしてそんなに思い煩うのか、と尋ねておられます。礼拝毎に日用の糧を求めて祈る人は、それを受け取ることができます。神様はまた、私たちの心と魂が必要とするものをも与えてくださいます。

礼拝によって与えられるもの

人々が心の奥底で必要としているのは、守られているという感覚、安らげる場所があるという感覚、単に受け入れられているだけでなく愛されているという感覚です。これらを、礼拝においてキリストが会衆に与えてくださいます。礼拝で提供される命の糧は、この一言に集約されます。「我が子よ、私はあなたを愛している。」

迫害を受けることで、逃げなければならない時があります。しかし、やがて天国がやって来ます。天国で神様は、私たちが思いも付かないものを与えてくださいます。そもはや飢えも渴きもなく、病気も痛みもありません。そこには、ただ両手を広げた私たちの主であり救い主であるイエス・キリストがおられ、「あなたがたを愛している」と言っ

てくださるのです。

訳者注

ボエンデ

コンゴ民主共和国の都市である。ツアパ州の州都である。プエンデとも呼ばれる。(出典 ウィキペディア)

コンゴ民主共和国

中部アフリカに位置する共和制国家。首都はキンシャサ。北西にコンゴ共和国、南西にアンゴラ、南にザンビア、東にタンザニア、ブルンジ、ルワンダ、北東にウガンダ、南スーダン、北に中央アフリカ共和国と国境を接し、西は大西洋に面する。かつてはザイールと称していた。(出典 ウィキペディア)

ツアパ州

コンゴ民主共和国中央の州。2005年の人口は131万6855人。州都はボエンデ。州内を流れるツアパ川が名前の由来である。(出典 ウィキペディア)

アハブ

紀元前9世紀頃に北イスラエル王国を治めた第7代の王。聖書においては「歴代の王の中で神様の目から見て最悪の王」の一人として知られている。(Google Gemini による AI 生成)

ナックトゥデイ

新使徒教会国際本部発行

原著 Oliver Rütten

挿絵 Google Gemini による AI 生成

日本語訳発行 〒206-0014 東京都多摩市乞田1320 日本新使徒教会

(042)374-0070